

# 神在祭のマニフェスト

お忌さん



令和二年十一月二十日より二十五日まで

八百万の神々が集う「神在の社」

出雲國ニノ宮 佐太神社

お問い合わせ先  
佐太神社事務所

〒690-0331 島根県松江市鹿島町佐陀宮内73  
TEL / FAX (0852) 82-0668  
<http://sadajinjya.jp/>

# 神在祭（お忌さん）は出雲地方 晩秋の風物詩

旧暦十月、出雲の國には八百万の神々がお集りになることから出雲地方では神在月と云います。

当社は古より「神在りの社<sup>\*1</sup>」と称えられた御社であり、いまも古伝の祭祀を守り伝えていきます。

社伝によると当社は伊弉冉尊<sup>\*2</sup>の陵墓である比婆山の神陵を遷し奉った社と伝え、旧暦十月は母神である伊弉冉尊を偲んで八百万の神々が当社にお集りになるとされています。

導きの神佐太<sup>\*3</sup>大神（猿田毘古大神）をはじめ、この祭りに集う八百万の神々の

広大無辺なる御神徳・大御を戴かれますよう御参詣、御祈念のご案内を申し上げます。

## 神在祭神事の日程

神迎え神事	十一月二十日	午後8時～午後9時半頃まで
神等去出神事	十一月二十五日	午後8時～午後11時頃まで
止神送神事	十一月三十日	

## 御祈願の日程

受付時間	十一月二十一日～二十四日	午前9時～午後8時まで
	十一月二十五日	午前9時～午後6時まで

## 御祈願お申し込み方法

※今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、  
祈願申込書に必要事項をご記入の上、祈禱受付にお渡しください。  
祈願はできるだけ郵送にてお願い申し上げます。

### 当日ご参拝の方

◆ 感染予防のためマスクを着用してお越しください。

◆ 37・5度以上の発熱など風邪の症状がある方は参拝をご遠慮ください。  
御祈願の上、御神札を郵送いたします。ご希望の方は申込書を  
郵送またはファックスにてご送付いただき郵便振替・現金書留、  
その他適当な方法で初穂料をお納めください。

◆ 初穂料

五千円 壱萬円 参萬円 五萬円 十萬円以上

※ 参萬円以上お納めの方は祭事の期間中毎日祝詞を奏上いたします。

◆ 団体様の御祈願

十名様以上の団体（会社などの法人）の方は初穂料 参萬円から承っております。

佐太神社神在祭講社講員の方はこの限りではありません。

◆ 奉獻酒・御神饌を御奉納の方は佐太神社社務所宛に適当な方法をもつて御供えください。  
奉獻酒料・神饌料として御奉納頂いても結構です。別添郵便振替払込取扱票・現金書留等にてお納めください。



佐太神社公式ホームページからも御祈願のお申し込みができます。詳しくは左記より

# 神在月

かみありづき

一般に十月を神無月と云いますが、出雲國では神在月と申します。古来諸説、俗説多くあります。神在はジンザイと読み、鎮齋（ちんさい）すなわち忌の意味で新嘗祭に關係を持つていると思われます。新嘗には斎戒を厳重に行う風俗があり、新穀を神に献げる祭を相新嘗といい十月に行つていました。大宝律令の制定後、伊勢の神宮だけは尊崇の為、祭りを繰り上げて九月に行い、他は繰り下げる十月は依然祭りが少ない月、「神無月」となったのです。しかし、出雲國では依然として十月に新穀を献ずる新嘗の祭が行われ、また風土記に載る意宇、秋鹿、楯縫、出雲の神名火山・神名権山に神々が去來するというカンナビ信仰が結びつき出雲國特有の祭として残つたと考えられています。

## 御朱印 神在祭限定 「神在社龍蛇神印」を捺印します



11月25日 神在祭 神等去出神事



11月30日 神在祭 止神送神事

## 神等去出神事

からさでしんじ

※写真撮影等はご遠慮ください

二十五日の神送りの神等去出神事は社頭で祭祀の後、神職以下氏子・崇敬者が高張提灯、大幣、大榊などを奉持し、神社から西北一キロ程離れた神ノ目山（高天原とも呼ぶ）の祭場へ神々をお送りします。そこに神池と呼ぶ小さな滝みの周りを円錐形に飾り付けます。池の中に御舟を入れ、神籬を置き、神々をお送りします。この時、齋主は秘音で「力コ」と三度唱えます。すると神領の小鳥が三羽死に、御舟を導くという古い言い伝えがあります。次に御神木にクズコ力ズラを三重に巻き柳の削り懸け、桜の皮、土幣それぞれ二つずつを飾り付け、「一夜御水」（いちやごす）と呼ぶ一夜酒を力ワラケに注ぎ御神木の根元に供え、齋主は御神木の前に跪き秘音で祝詞を唱えた後、十八度の奉幣を行います。

※祭りの内容は明応二年佐陀大社縁起にほぼ同じ様式が記されており  
少なくとも約五百年の間、変わらず行われてきたといえます。

## 御神燈奉納のご案内

- ◆御神燈の掲揚期間..毎年十一月二十日より二十五日佐太神社 神在祭の期間中
- ◆御神燈の掲揚場所..佐太神社境内・神等去出神事のご参列
- ◆奉納金額

### 一燈お申し込みの場合

初年度 三万円（御神燈作成費・燈明料）

※次年度より毎年燈明料一万円をお納めください。

### 一燈お申し込みの場合



会社団体のロゴ等指定のデザインを入れる場合は社務所までご相談ください。  
**佐太神社々務所**  
(0852)82-0668 info@sadajinjya.jp  
※お電話またはメールにてお問合せください。

写真撮影 加島美知

## ぜんざい発祥の地

神在餅「ジンザイ」転じて「ぜんざい」



十一月二十五日は神々をお送りする神等去出神事が執り行われます。この日はカラサデさんといわれ、神前に供えていた餅と小豆と一緒に煮て小豆雑煮を作り再び供えていました。これを「神在餅」と呼び、今も宮司宅では家例としてこの日に小豆雑煮を作り、屋敷内の祖靈社、稻荷社、邸内の歳神にお供えいたします。昔は里人の間でも一重ねのオカガミ（餅）をもって参拝後、小豆雑煮を作つて家の神棚に供えてから銘々も頂く風習があつたようです。この「神在餅」が転化して「せんざい」になつたといわれています。「雲陽誌」などのいくつかの古文献にも記述があることから当社はぜんざい発祥の地ともいわれています。



お忌みさん期間中 賑わう参道



神在祭名物ケンボナシ



\*1 貞治5年(1366年)万葉学者 由阿『詞林采葉抄』佐太神社の神在祭に関して文献上の初見

\*2 昭和8年(1933年)國學院雑誌39卷:朝山昭著『出雲神在祭の起源に就て』

\*3 平成7年(1995年)石塚尊俊著『神去来』(慶友社)

\*4 明応2年(1493年)『佐陀大社縁起』

\*5 永正9年(1512年)櫛宣 宮川佐与之助著(宮川家旧蔵)『佐陀社頭覚書』断簡

\*6 享保2年(1717年)松江藩の地誌 黒沢長尚撰『雲陽誌』